

埼玉県内最近の主な学校再編成

資料 1

1 開校済（網掛け・・・小学校と中学校の集約）

市町名	統合形態	新校名（編入先） （開校年月）	児童・生徒数 （R3年度）	統合前の学校
川越市	小学校と小学校	古谷小学校 (H21.4)	470人	古谷小・古谷東小
川口市	小学校と小学校	芝中央小学校 (H24.4)	461人	芝中央小・芝東小
行田市	小学校と小学校	忍小学校 (R4.4)	366人/57人	中央小・星宮小
		南河原小 (R4.4)	134人/20人	南河原小・北河原小
		見沼小(旧荒木小) (R4.4)	104人/48人	荒木小・須加小
秩父市	小学校と小学校	大滝小学校 (H13.4)	43人	大滝小・光岩小
	小学校と小学校	荒川西小学校 (H26.4)	43人	荒川西小・大滝小
	小学校と小学校	吉田小学校 (H12.4)	171人	吉田小・石間小 H16.4に上吉田小も統合
	中学校と中学校	荒川中学校 (H27.4)	119人	荒川中・大滝中
所沢市	小学校と小学校	中央小学校 (H18.4)	327人	新井小・並木東小
飯能市	小学校と小学校	奥武蔵小学校 (H31.4)	70人	東吾野小・西川小・吾野小
	中学校と中学校	原市場中学校 (R3.4)	110人	名栗中学校・原市場中学校
東松山市	小学校と小学校	桜山小学校（新） (H18.4)	339人	桜山小（旧）・緑山小
春日部市	小学校と中学校 (義務教育学校)	江戸川小中学校 (H31.4)	206人 (小130人/中76人)	宝珠花小・富多小・江戸川中
	中学校と中学校	春日部南中学校 (H31.4)	488人	中野中・谷原中
狭山市	小学校と小学校	狭山台小学校 (H22.4)	414人	狭山台北小・狭山台南小
	中学校と中学校	入間野中・山玉中 (H27.4)	535人・326人	入間中の分割統合

狭山市	中学校と中学校	中央中・狭山台中・ 山王中 (H28.4)	469人・591 人・326人	東中の分割統合
鴻巣市	小学校と小学校	鴻巣中央小学校 (R4.4)	371人	鴻巣中央小・笠原小
草加市	小学校と小学校	松原小学校 (H21.4)	386人	北谷小・花栗小
新座市	小学校と小学校	新座小学校(新) (H16.4)	308人	新座小(旧)・大正小
桶川市	小学校と小学校	桶川小学校 (H19.4)	601人	桶川北小・桶川南小
戸田市	小学校と中学校 (施設一体型)	戸田東小学校・戸田東中学校 (R3.4)	1524人 (小1116人/中408人)	戸田東小学校・戸田東中学校
久喜市	小学校と小学校	江面小学校 (R3.4)	209人	江面第一小・江面第二小
	小学校と小学校	栗橋小学校 (H13.4)	587人	栗橋東第一小・栗橋東第二小
	中学校と中学校	菖蒲中学校(新) (R4.4)	310人	菖蒲中(旧)・菖蒲南中
北本市	小学校と小学校	石戸小学校 (R3.4)	287人	石戸小・栄小
富士見市	小学校と小学校	つるせ台小学校 (H18.4)	621人	上沢小・鶴瀬西小
三郷市	小学校と小学校	瑞木小学校 (H17.4)	384人	さつき小・瑞沼小
	小学校と小学校	彦糸小学校 (H24.4)	204人	彦糸小・北郷小
坂戸市	中学校と中学校	桜中学校 (H23.4)	328人	北坂戸中・泉中
	小学校と中学校 (施設一体型)	城山学園 (H27.4)	181人 (小109人/中72人)	城山小・城山中
	小学校と小学校	桜小学校 (H28.4)	363人	北坂戸小・泉小
幸手市	小学校と小学校	さかえ小学校 (H15.4)	123人	栄第一小・栄第二小
幸手市	小学校と小学校	さくら小学校 (H17.4)	458人	緑台小・幸手東小
	小学校と小学校	長倉小学校 (H24.4)	516人	長倉小・香日向小
	中学校と中学校	幸手中学校 (H21.4)	466人	幸手中・栄中

ふじみ野市	小学校と小学校	上野台小学校 (H14.4)	829 人	第二小・第四小
小川町	小学校と小学校	小川小学校 (R4.4)	348 人/64 人	小川小・東小川小
	中学校と中学校	東中学校 (H23.4)	316 人	東中・小川中
鳩山町	小学校と小学校	鳩山小学校 (H19.4)	142 人	鳩丘小・松栄小
川島町	小学校と小学校	つばさ南小学校 (H30.4)	114 人	三保谷小・出丸小
		つばさ北小学校 (H30.4)	147 人	八ツ保小・小美野小
ときがわ町	小学校と小学校	萩ヶ丘小学校 (H16.4)	45 人	大柵第一小・大柵第二小・平小
横瀬町	小学校と小学校	横瀬小学校 (H21.4)	344 人	横瀬小・芦ヶ久保小
皆野町	小学校と小学校	国神小学校 (H14.4)	75 人	国神小・野沢小 H25.4 に金沢小も統合
小鹿野町	小学校と小学校	小鹿野小学校 (H16.4)	270 人	小鹿野小・倉尾小
	中学校と中学校	小鹿野中学校 (旧) (H13.4)	308 人	小鹿野中 (旧)・倉尾中 小鹿野中 (旧) も下記の通り統合
	中学校と中学校	小鹿野中学校 (新) (H28.4)	308 人	小鹿野中 (旧)・三田川中・長若中・両神中
東秩父村	小学校と小学校	槻川小学校 (H25.4)	75 人	東小・西小
神川町	中学校と中学校	神川中学校 (H26.4)	319 人	神川中・神泉中

## 2 計画（網掛け・・・小学校と中学校の集約）

市町名	統合形態	新校名（編入先） 人数（R3）	統合前の学校数 人数（R3）	備考
熊谷市	小学校と小学校	成田星宮小 計 483 人	小学校 2 校 (成田小・星宮小) 428 人・55 人	R5 目標
	小学校と小学校	(検討) 計 341 人	小学校 3 校 (男沼小・太田小・妻沼南小) 68 人・140 人・133 人	R7 目標
行田市	小学校と小学校	(検討) 計 283 人	小学校 2 校 (太田西小・太田東小) 224 人・59 人	R5 目標
東松山市	小学校と小学校	(検討) 計 903 人	小学校 3 校 (松二小・大岡小・市の川小) 335 人・77 人・491 人	未定
		(検討) 計 1150 人	小学校 3 校 (松一小・唐子小・青鳥小) 387 人・335 人・428 人	R7 目標
		(検討) 計 1505 人	小学校 3 校 (野本小・高坂小・桜山小) 355 人・811 人・339 人	R7 目標
	中学校と中学校	(検討) 計 828 人	中学校 2 校 (南中・白山中) 627 人・201 人	R7 目標
越谷市	小学校と中学校 (一体型/分離型)	蒲生学園 (仮) 計 2800 人	小学校 3 校と中学校 2 校 (蒲生小・蒲生第二小・蒲生南小・ 南中・光陽中) 407 人・546 人・558 人・593 人・ 696 人	R9 目標 蒲生小と蒲生第二小は合 併済 (R4.4) 光陽中は下記 2 校と分割 統合
	小学校と中学校 (一体型/分離型)	川柳学園 (仮) 計 1505 人	小学校 1 校と中学校 1 校 (川柳小・光陽中) 809 人・696 人	R9 目標
	小学校と中学校 (隣接型)	明正学園 (仮) 計 1635 人	小学校 1 校と中学校 1 校 (明正小・光陽中) 939 人・696 人	R9 目標
鶴ヶ島市	中学校と中学校	(検討) 計 737 人	中学校 2 校 (鶴ヶ島中・西中) 422 人・315 人	R9 目標
	小学校と中学校 (一体型 or 隣接型)	(検討) 計 635 人	小学校 1 校と中学校 1 校 (南小・南中) 384 人・251 人	R14 目標
	中学校と中学校	(検討) 計 766 人	中学校 2 校 (藤中・富士見中) 505 人・261 人	R19 目標
	小学校と小学校	(検討) 計 754 人	小学校 2 校 (鶴ヶ島第二小・藤小) 305 人・449 人	R23 目標
	小学校と小学校	(検討) 計 800 人	小学校 2 校 (杉下小・栄小) 444 人・356 人	R27 目標
	小学校と小学校	(検討) 計 775 人	小学校 2 校 (鶴ヶ島第一小・長久保小) 416 人・359 人	R31 目標
日高市	小学校と中学校 (義務教育学校)	武蔵台小 計 337 人	小学校 1 校と中学校 1 校 (武蔵台小・武蔵台中) 211 人・126 人	R5 目標

		高根小 計 340 人	小学校 1 校と中学校 1 校 (高根小・高根中) 198 人・142 人	R6 目標
		(検討) 計 334 人	小学校 1 校と中学校 1 校 (高麗小・高麗中) 214 人・120 人	R7 目標
吉見町	小学校と小学校	東第一小・東第二小・南小・西小・北小・西が丘小統合小学校(仮) 計 651 人	小学校 6 校 (東第一小・東第二小・南小・西小・北小・西が丘小) 166 人・42 人・129 人・141 人・104 人・69 人	R10 目標
長瀬町	小学校と小学校	(検討) 計 290 人	小学校 2 校 (長瀬第一小・長瀬第二小) 231 人・59 人	R6 目標
杉戸町	中学校と中学校	(検討) 計 427 人	中学校 2 校 (東中・広島中) 111 人・316 人	R7 目標
	小学校と小学校	(検討) 551 人	小学校 2 校 (西小・高野台小) 293 人・258 人	R10 目標

※網かけ・・・小学校と中学校の集約

### 3 その他検討中

上尾市

嵐山町 等

## 今後の小中学校のあり方(施設一体型小中一貫校)に関する広聴会

施設一体型小中一貫校の開設は小中学校を統廃合する大きな事業です。教育委員会では、昨年度から新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、施設一体型小中一貫校について、皆さんのご意見をうかがう広聴会を開催してきました。

### 1 広聴会の実施状況

開催回数:8回

延べ参加者数:136人

《内訳》

対象	開催日	会場	回数	参加者数
児童生徒保護者	R2.10.18(日) 午前/午後 R2.10.25(日) 午前/午後	各小学校	4回	56人
未就学児保護者	R2.11.8(日) 午前/午後	東公民館	2回	43人
一般	R3.6.13(日) 午前/午後	中央公民館	2回	37人
合計			8回開催	136人参加

### 2 主な質問や意見

#### 質問

Q. プロジェクト基本方針にある「子どもたちの生きる力の育成」とは、どのようなことなのか。

A. 「生きる力」とは、学習指導要領にて示されている「知・徳・体」といった総合的な力のことで、そのような力を育てていくことです。

Q. 小中学校を集約すると、小中学生と一緒に生活することになります。そのことへの子どもたちへのサポートはどのように考えていますか。

A. 小中学校を集約する準備期間中に小学生が中学校で授業を受けるなど、子どもたちが徐々に環境に慣れていくよう交流の機会を設けていきます。

Q. 入学式や卒業式、運動会などの学校行事は、小中学生と一緒に行うことになるのでしょうか。

A. 行事の内容や効果によって小中学生が合同に行うのか、それとも別々に行うのかを決定していきます。

Q. 小中一貫教育では、中学校の部活動と小学校のクラブ活動を一体におこなうのですか。

A. 基本的には学習指導要領に基づき、活動は別々になりますが、効果的だと判断できれば、小学校高学年の児童が部活動に参加することも検討します。

Q. 一コマの授業時間が小学校では45分、中学校では50分と異なりますが、どのように授業時間を組むのですか。

A. 他校では、例えばチャイムを鳴らさない「ノーチャイム」を取り入れている学校がありますので、そのような先進事例を参考にしていきます。

Q. 小中学生が同じ施設で生活することによって、中学生の学習の妨げになることはありませんか。

A. 中学生のテスト中に関わらず、静かな環境が必要な時もあります。ルール決めの必要があると考えています。

Q. 小中学校を集約すると中学校の教員数は増えるのですか。

A. 教員数は、国の基準によって学級数に応じて決まりますので、教員数は変わりませんが、小中学校を集約することで、教員が互いに補い合うことが可能となります。

Q. 学級数に応じて教員数が決まるのであれば、小中学校を集約すると教員の数は減るのではないのでしょうか。

A. 町全体では教員数が減少しますが、小中学校を集約することにより、一校に小中学校の教員がいることになり教員数は増加することになります。

Q. 小学校の教員は中学校の授業を担当できないのではないですか。

A. 小学校免許だけでは中学校の授業を直接行うことはできませんが、サポート役として授業に参加することができます。

Q. 小中学校を集約することで小学生の通学距離が遠くなる場合がありますが、安全な登下校の対策はどうなりますか。

A. 子どもたちの安全を第一に考え、スクールバスの導入も含めて検討します。

Q. 小学生と中学生では体格が異なりますが、同じ校舎で生活する際の安全確保は

どのように考えていますか。

- A. 基本的に生活の場は小学生と中学生で分ける予定で考えています。
- Q. 小学校が中学校に集約された後、小学校の校舎や体育館など学校跡地はどうなるのですか。
- A. 小学校の体育館は避難所に指定されていますので、敷地利用を含めて今後検討していきます。
- Q. 小中学校を集約する時には、今の中学校校舎の教室数で足りるのですか。
- A. 普通教室や特別教室など、増築校舎が必要になると考えています。
- Q. 小学生はその体格差により、中学校校舎を利用しづらいのではないですか。
- A. 小学生でも利用できるよう、体格差に応じた改修を実施する予定です。
- Q. 現在の毛呂山小学校や川角小学校に整備した学童保育所はどうなるのですか。
- A. 今後も使用していく予定ですが将来的に検討していきます。

## 意見

- 小中学校を集約することの住民周知が不足していると思う。
- 施設一体型小中一貫校は、町公共施設削減のための手段となってしまっている。
- 小学校2校ずつの集約でも良いのではないか。
- 学校は地域のシンボルであり小学校を無くすことは反対。
- 小中一貫教育と小中学校の集約をいっしょに考えるからわかりづらい。
- 学校が遠くなると地域の魅力が無くなってしまう。
- 小中学生が同じ敷地内で生活することは危険を伴う。
- 客観的根拠にもとづく資料をいただきたい。
- 小中学生が一緒に生活すると、小学校高学年のリーダーシップが薄れてしまう。
- 将来にかかわる問題であり、住民の意見をしっかり聞いてほしい。

## 3 今後の予定

今後も、小中学校を集約する施設一体型小中一貫校について町の考えやこれからのことをお知らせするとともに、みなさんの意見をうかがう広聴会を開催する予定です。広報や町ホームページで開催をお知らせしますので、皆様のご参加をお願いいたします。



## 施設形態ごとの各小中学校の主なメリット・デメリット

### ■施設一体型小中一貫校

- ▶毛呂山中学校に毛呂山小学校と泉野小学校を集約
- ▶川角中学校に川角小学校と光山小学校を集約

#### 小学校

##### 《主なメリット》

- ・プロジェクト基本方針（小中一貫教育）が最も効果をあげる（全小学校）
- ・単学級が解消できる（全小学校）
- ・多くの教員で子供たちを見守ることができる（全小学校）
- ・児童生徒や教員の交流が日常的に行える（全小学校）
- ・大規模改修工事を行った中学校の校舎を使用できる（全小学校）
- ・小学校校舎を大規模に改修する必要がない（全小学校）

##### 《主なデメリット（課題）》

- ・小中学生それぞれの動線、エリア分けが必要となる（全小学校）
- ・通学距離が大きく変化する家庭がある（川角小学校・光山小学校・泉野小学校）
- ・スクールバスなど、安全に登下校するための経費が必要となる（全小学校）

#### 中学校

##### 《主なメリット》

- ・プロジェクト基本方針（小中一貫教育）が最も効果をあげる（両中学校）
- ・多くの教員で子供たちを見守ることができる（両中学校）
- ・児童生徒や教員の交流が日常的に行える（両中学校）

##### 《主なデメリット（課題）》

- ・小中学生それぞれの動線、エリア分けが必要となる（両中学校）
- ・既存校舎の改修や増築校舎を整備するための工事費が必要となる（両中学校）
- ・校庭を小学生が使用するための整備費が必要となる（両中学校）



（施設一体型小中一貫校のイメージ）

## ■施設隣接型小中一貫校

▶毛呂山中学校と毛呂山小学校

### 毛呂山小学校

#### 《主なメリット》

- ・小中学生のエリア分けは必要なし
- ・グラウンドや体育館など小中学校施設をそれぞれ活用できる
- ・通学距離はこれまでと変わらない

#### 《主なデメリット（課題）》

- ・単学級が解消できない
- ・児童生徒や教員の交流はしやすいが移動に時間を要する
- ・小学校校舎を大規模に改修するための工事費が必要となる

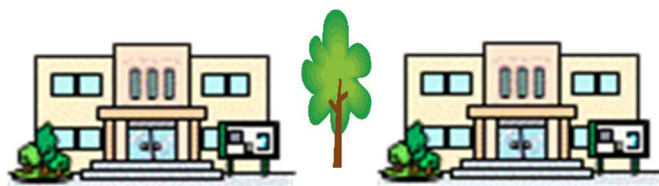
### 毛呂山中学校

#### 《主なメリット》

- ・小中学生のエリア分けは必要なし
- ・グラウンドや体育館など小中学校施設をそれぞれ活用できる
- ・既存校舎の改修や増築校舎を整備するための工事費は必要なし

#### 《主なデメリット（課題）》

- ・児童生徒や教員の交流はしやすいが移動に時間を要する



（施設隣接型小中一貫校のイメージ）

## ■施設分離型小中一貫校

- ▶現在の小中学校6校体制を維持

### 小学校

#### 《主なメリット》

- ・小中学生のエリア分けは必要なし（全小学校）
- ・グラウンドや体育館など小中学校施設をそれぞれ活用できる（全小学校）
- ・通学距離はこれまでと変わらない（全小学校）

#### 《主なデメリット（課題）》

- ・単学級が解消できない（全小学校）
- ・児童生徒や教員の交流がしにくい（全小学校）
- ・小学校校舎を大規模に改修するための工事費が必要となる（全小学校）

### 中学校

#### 《主なメリット》

- ・小中学生のエリア分けは必要なし（両中学校）
- ・グラウンドや体育館など小中学校施設をそれぞれ活用できる（両中学校）
- ・既存校舎の改修や増築校舎を整備するための工事費は必要なし

#### 《主なデメリット（課題）》

- ・児童生徒や教員の交流がしにくい（両中学校）



（施設分離型小中一貫校のイメージ）

## クラス数の今後の予測

(令和4年5月1日時点の推計による)

## ■ 小学校

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	
毛呂山小学校	全ての学年が2クラス						単学級の学年が発生									全て単学級
川角小学校	全ての学年が2クラス			単学級の学年が発生												全
光山小学校	全	単学級の学年が発生 ※						全て単学級								
泉野小学校	単学級発生													全て単学級		

※令和5年度の1年生は2クラスの予想

## ◎ 小学校どうしを集約した場合

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18		
毛呂山小学校と泉野小学校	全ての学年が3クラス						2クラス発生									全て2クラス	
川角小学校と光山小学校	全ての学年が3クラス			2クラス発生						全て2クラス							

小中学校の合計クラス数

26クラス

28クラス

22クラス

23クラス

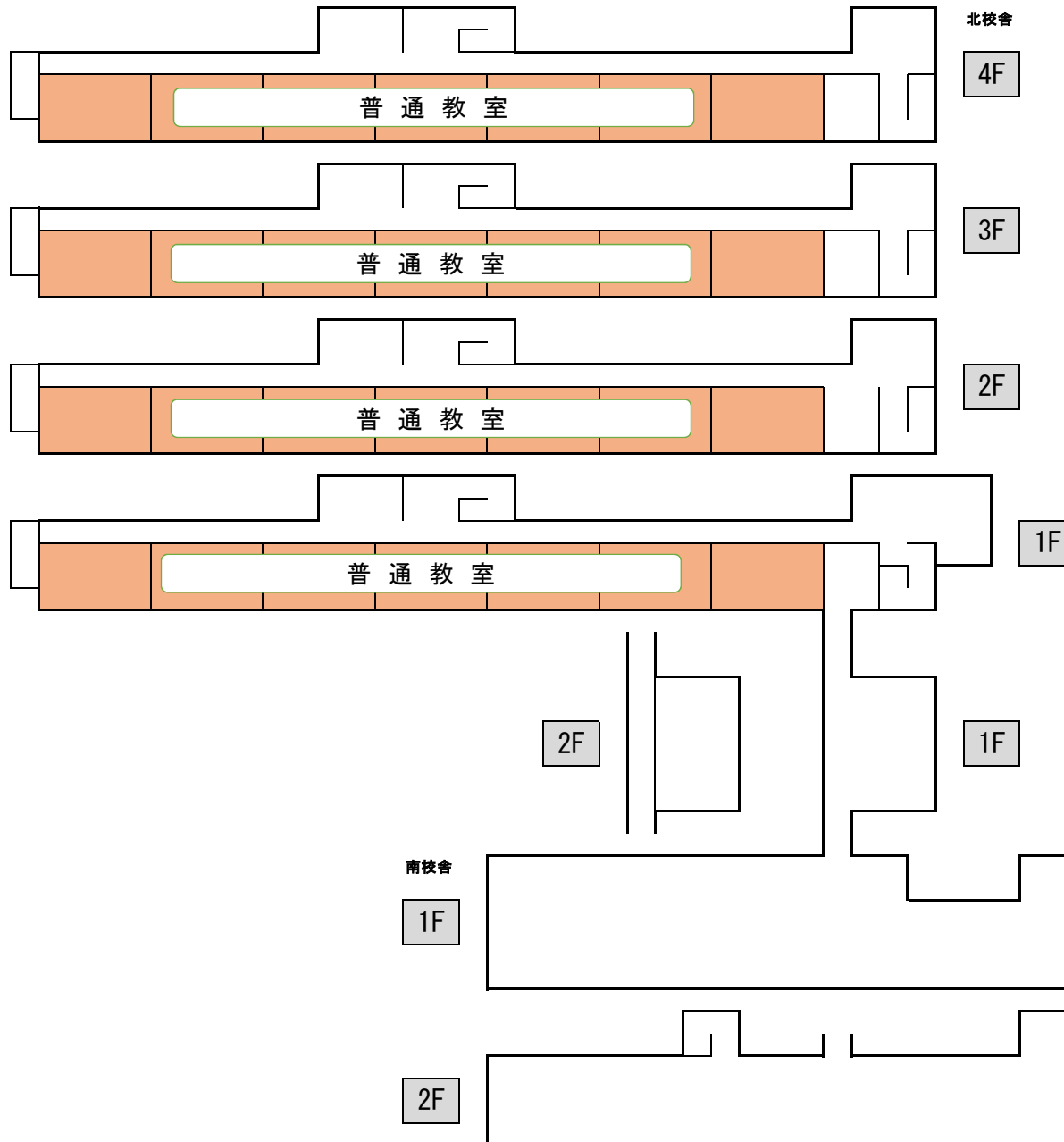
21クラス

22クラス

## ■ 中学校

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	
毛呂山中学校	4クラスの学年あり			全ての学年が3クラス						2クラス発生		全て2クラス				
川角中学校	全ての学年が3クラス						2クラス発生		全て2クラス			単学級発生				

※小中学校の合計クラス数には、特別支援学級（小学校2クラス・中学校2クラス）を含みます。



■普通教室数として使用可能 28教室

■必要な教室数の例

▶教室が不足する場合は増築校舎(※)が必要

◎令和10年度 32教室

(内訳) 小学校分 14教室  
 中学校分 8教室  
 特別支援学級 4教室(小学校2・中学校2)  
 分散のための教室等 6教室

◎令和13年度 28教室

(内訳) 小学校分 12教室  
 中学校分 6教室  
 特別支援学級 4教室(小学校2・中学校2)  
 分散のための教室等 6教室

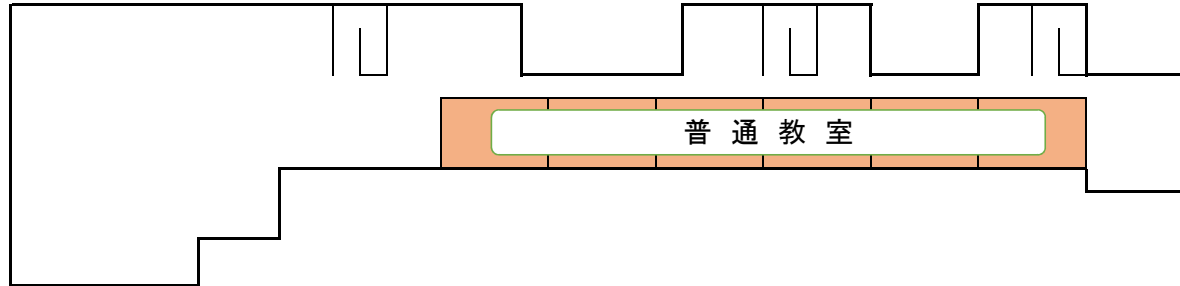
◎令和16年度 27教室

(内訳) 小学校分 12教室  
 中学校分 5教室  
 特別支援学級 4教室(小学校2・中学校2)  
 分散のための教室等 6教室

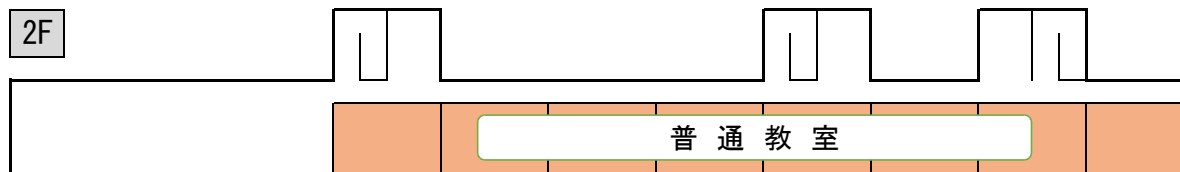
※増築校舎には、特別教室などが必要な場合があります。

毛呂山中学校 既存校舎イメージ

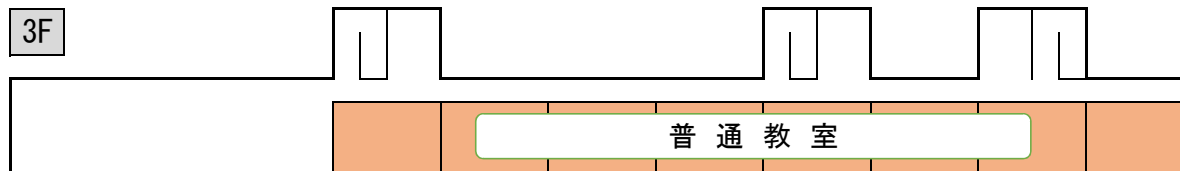
1F



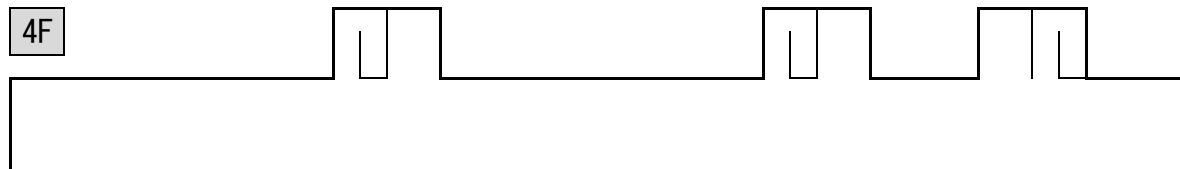
2F



3F



4F



■普通教室数として使用可能 22教室

■必要な教室数の例

▶教室が不足する場合は増築校舎(※)が必要

◎令和12年度 34教室

(内訳) 小学校分 16教室  
中学校分 8教室  
特別支援学級 4教室(小学校2・中学校2)  
分散のための教室等 6教室

◎令和15年度 29教室

(内訳) 小学校分 13教室  
中学校分 6教室  
特別支援学級 4教室(小学校2・中学校2)  
分散のための教室等 6教室

◎令和18年度 28教室

(内訳) 小学校分 12教室  
中学校分 6教室  
特別支援学級 4教室(小学校2・中学校2)  
分散のための教室等 6教室

※増築校舎には、特別教室などにも必要な場合があります。

(注意) この図はイメージであり、寸法や配置などは正確ではない